

平成19年度東北地域バイオマス利活用推進連絡会議の活動 (案)

1 普及啓発活動の強化

(1) バイオマスシンポジウムの開催

平成19年12月3日、仙台国際センター（仙台市）において「東北バイオマスフォーラム2007」を開催した。参加者数 530名

【資料2 - 1】

(2) 各種イベントにおける情報提供

各構成機関のイベント等で「東北バイオマスフォーラム2007」の案内チラシを配付した。

平成20年2月7日「食品リサイクルシンポジウム」（主催：東北農林水産関連企業環境対策協議会ほか、後援：宮城県、東北農政局）で、バイオマス利活用に関する講演および参考資料を配付した。

2 情報交換・情報発信の強化

(1) 連絡会議の定期活動

各省庁におけるバイオマス利活用の取組みについての情報交換や、東北地域のバイオマスの利活用を推進するための方策等について連絡調整を行うために会議を開催した（第1回19年6月、第2回20年2月）。

(2) ホームページの充実

バイオマス連絡会議及び関係機関の活動状況、東北地域のバイオマス取組事例、バイオマス利活用推進のための支援策等について、インターネットを通じてより広く紹介するため、ホームページを拡充し、新鮮な情報を発信した。

(3) 「バイオマス関連補助事業等の手引き」を平成19年度版に更新

地方公共団体等のバイオマス利活用の推進のため、事業活用の手引きとして、各省庁が所管するバイオマス関連補助事業、県単独補助事業の支援内容について、ホームページに掲載した。

【資料2 - 2】

3 バイオマスタウンの推進のための支援と活動の強化

(1) 東北地域におけるバイオマスタウン構想の策定・公表目標数を、2

010年（平成22年）までに37地域に設定した。

東北における策定目標 37 地域の算出方法（市町村数は平成 18 年 3 月 31 日時点）

全国市町村数	1 8 2 1	タウン構築目標	3 0 0 地域	約 1 6 %
東北市町村数	2 3 2	タウン構築目標	(232 * 16%)	3 7 地域

平成 18 年度末までに東北管内で 18 地域が策定済み。
平成 19 年度のバイオスタウン構想策定・公表地域は下記のとおり。

青森県：十和田市、中泊町、八戸市、六ヶ所村

岩手県：軽米町、葛巻町

秋田県：能代市、東成瀬村

山形県：飯豊町

福島県：会津美里町、大玉村

[計 11 地域]

【累計 29 地域】

【資料 2 - 3】

(2) バイオスタウン構想策定地域への活動強化

H20.2.19 仙台市内において、秋田県小坂町、山形県村山市、福島県富岡町のバイオマス担当者を招き、取組の状況や課題等について連絡会議構成機関と意見交換を実施した。

各構成機関からのアドバイス等を議事録にとりまとめ、他市町村が参考情報として活用できるよう、連絡会議ホームページへ掲載した。

(3) バイオスタウン構想策定地域への情報提供等の支援

各構成機関が主催、共催、後援するセミナー、シンポジウム、フォーラム等の開催イベント情報をバイオスタウン構想公表市町村へ提供した（四半期毎）。

各構成機関の支援事業の公募情報等をバイオスタウン構想公表市町村へ提供した（随時）。

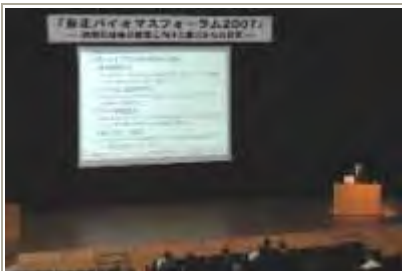
(4) バイオスタウン構想策定予定地区への活動強化

「バイオマス利活用相談窓口」への質問・相談対応 2 件
電話による相談等 多数

「東北バイオマスフォーラム 2007」写真集



セミナーの部挨拶
東北経産局_佐藤課長



事例発表
月島機械_有賀参事



事例発表
日本車両株式会社_吉田技師長



講演
(株)三菱総合研究所
井上主任研究員



主催者挨拶
東北農政局_山根局長



講演
科学ジャーナリスト_小出氏



講演
東京大学生産技術研究所
迫田教授



提案
東北バイオマス発見活用協議会
図師田氏



パネルディスカッションの様子



BDF バス・タクシーによる
市内走行出発式
お客さんは、仙台市東二番丁幼稚園
の皆さんです



BDF バス



BDF タクシー

フォーラムの部

基調講演

「地球市民の温暖化対策」

- 科学ジャーナリスト 小出 五郎 氏
 - [講演者のプロフィール\(PDF:22KB\)](#)

「バイオマス利活用に向けた今後の展望」

- 東京大学生産技術研究所 教授 迫田 章義 氏
 - [講演者のプロフィール\(PDF:17KB\)](#)
 - [講演資料-1\(PDF:564KB\)](#)
 - [講演資料-2\(PDF:771KB\)](#)
 - [講演資料-3\(PDF:362KB\)](#)

提案

「東北地域におけるバイオマス利活用の提案」

- 東北バイオマス発見活用協議会 図師田 聡子 氏
 - [講演資料-1\(PDF:591KB\)](#)
 - [講演資料-2\(PDF:610KB\)](#)

パネルディスカッション

テーマ「私たちが創る環境に優しい社会」

- コーディネーター
 - マサチューセッツ工科大学客員教授 庄子 幹雄 氏
 - [コーディネーターのプロフィール\(PDF:12KB\)](#)
- パネリスト
 - みやぎ生活協同組合 大原 英範 氏
 - [パネリストのプロフィール\(PDF:17KB\)](#)
 - 佐川急便株式会社 中尾 文愛 氏
 - [パネリストのプロフィール\(PDF:16KB\)](#)
 - [説明資料\(PDF:185KB\)](#)
 - 三菱総合研究所環境・エネルギー研究本部 井上 貴至 氏
 - 科学ジャーナリスト 小出 五郎 氏
 - 東京大学生産技術研究所 教授 迫田 章義 氏

バイオマス展示コーナー

BDF バス・タクシーによる市内走行

東北農政局HPより

東北バイオマスフォーラム 2007

～ 循環型社会の構築に向けた東北からの提案 ～

12月3日(月曜日)、宮城県仙台市の仙台国際センターにおいて、およそ500人が参加して「東北バイオマスフォーラム 2007」が行われました。

フォーラムでは、最近の原油高やエネルギー自給の観点から注目を集めているバイオエタノールやBDF(バイオディーゼル燃料)等の講演が行われると共に、既に地域で走行するBDFバスやタクシーが仙台市内を走行し、国産バイオ燃料についての理解を身近にしました。

また、科学ジャーナリストの小出五郎氏から「地球市民の温暖化対策」と題して、私たちが取り組むべき地球温暖化対策として、地域レベルでの自発的な取組が大事であること等の講演をいただきました。さらに、バイオマス利活用を進め、政府機関のアドバイザリーグループメンバーを務める有識者や地域での取組事業者から地球温暖化防止対策の一つとして有意義な手法である「バイオマスの利活用」についてパネルディスカッションを行いました。

そして、ゴミの分別や、バイオマス活用の取組を私たち一人一人が理解し支える「バイオマスタウン」を作り進めていくことが大切であること等を「東北バイオマスフォーラム 2007」からの提案事項としてまとめられました。

フォーラムの様子



会場の様子



展示コーナーの様子



BDFバス・タクシーによる市内走行

バイオマス関連補助事業等の手引き



平成 1 9 年 7 月

東北地域バイオマス利活用推進連絡会議

目次

ページ

バイオマス関連補助事業の手引きについて	1
1 作成に当たって	
2 構成と利用方法	
3 項目の説明	
事業名(事業概要)一覧	4
関係機関別事業概要表	
1 農林水産省	13
2 経済産業省	24
3 環境省	30
4 青森県	33
5 岩手県	35
6 宮城県	41
7 秋田県	44
8 山形県	47
9 福島県	49
関係機関連絡先一覧	51

東北地域のバイオスタウン公表地域

平成20年5月末現在

22 青森県中泊町(なかどまりまち)

木質バイオマスのペレット化、稲わら等の堆肥化および資源作物の栽培を推進

1 青森県旧市浦村(しうらむら)

製材所残材ガス化発電で、電気・熱をタラソテラピー施設で利用等「地域エネルギーの地産地消」

27 秋田県能代市(のしろし)

特産ネギ・山ウド等の農業残さ、林地残材、食品残の安定的・効率的収集システムを構築し、エネルギー

2 秋田県小坂町(こさかまち)

遊休農地等を活用した菜の花栽培、廃食用油BDF化し農機利用に取組

18 秋田県横手市(よこてし)

家畜排せつ物・生ごみをメタン発酵と堆肥化、稲を

28 秋田県東成瀬村(ひがしなるせむら)

豊富な木質バイオマスを公共施設でエネルギー活用、家畜排せつ物・生ゴミを有機堆肥し、農業活性化とまちづくりを推進

30 秋田県羽後町(うごまち)

食品廃棄物等の未利用バイオマスの効率的な活用による循環型社会の実現、放置間伐材等のペレット化・ガス化など新エネルギー利用システム構築

5 山形県旧藤島町(ふじしままち)

家畜排せつ物を堆肥化、廃食用油のBDF化、粉がら・間伐材を炭化し土壌改良材等に利活用

4 山形県旧立川町(たちかわまち)

間伐材：製材残材ガス化コージェネレーション、ペレットボイラー導入、農業集落排水汚泥の炭化、廃食用油BDF化と農機利用を推進

3 山形県新庄市(しんじょうし)

生ゴミ、間伐材、家畜排せつ物を堆肥化、資源作物(ソルガム)栽培とエタノール化、バイオマス由来の燃

11 山形県鮭川村(さげがわむら)

茸栽培廃菌床から高品質完熟堆肥を生産、木質バイオマスから栽培施設へ電気・熱を供給

12 山形県村山市(むらやまし)

間伐材の発電・熱エネルギーを、融雪施設・冬期農業に利活用し、豪雪地帯の快適で豊かな社会を創る資

13 山形県西川町(にしかわまち)

廃食用油BDF化をバイオマス活用モデルとし、木質チップボイラーを園芸施設へ導入、家畜排せつ物

29 山形県飯豊町(いいでまち)

薪炭林・間伐材をペレット化し、住宅・施設・ハウスに利用、家畜排泄物・生活系生ゴミを堆肥化、廃食

15 青森県藤崎町(ふじさきまち)

稲わら・家畜排せつ物を堆肥化、下水汚泥をコンポスト化、生分解性プラスチックの利用・製造でバイオスタウンのシンボル

14 青森県鶴田町(つるたまち)

家畜排せつ物を堆肥化、果樹剪定枝や建設発生木材の熱利用で「冬の農業」を振興

8 青森県青森市(あおもりし)

ホタテ貝殻から雪道凍結防止剤、製材端材・食品残さでガス化

24 青森県六ヶ所村(ろっかしょむら)

家畜排せつ物・稲わらを堆肥化、バイオマス発電、廃食用油BDF化・菜の花栽培とごみ減量化等の住民参加体制の整備を

21 青森県十和田市(とわだし)

野菜残さの飼料化、家畜排せつ物液肥化で十和田ブランド農畜産物を生産と製材所残材の熱エネルギー利用で新たな事業展

23 青森県八戸市(はちのへし)

産学民の活力で、家畜排せつ物を堆肥・肥料・エネルギー化、汚泥・製材残材発電、生ごみ堆肥・飼料化、廃食用油BDF化

25 岩手県軽米町(かるまいまち)

家畜排せつ物の良質堆肥化と廃材・林地残材の粉炭土壌改良による優良農産物生産と廃食用油の直接エネルギー利用を推進

17 岩手県九戸村(くのへむら)

鶏糞の水熱反応処理で高品質有機肥料を製造し、「九戸ブラ

26 岩手県葛巻町(くずまきまち)

家畜排せつ物・間伐材の有効活用で、木質ペレット利用拡大、新たな木炭ビジネス展開など、地域資源(あるもの)活用によ

10 岩手県遠野市(とのおし)

「耕畜連携による土づくり」と端材・林地残材等の木質バイオマスや有機性残さをエネルギー活用

9 岩手県紫波町(しわちょう)

家畜排せつ物・食品残さ等の堆肥化、間伐材・製材残材等の炭化・木質ペレット化、廃食用油のBDF化

16 岩手県花巻市(はなまきし)

家畜排せつ物の有機質堆肥化で生産性の向上を図り、環境に配

7 宮城県川崎町(かわさきまち)

家畜排せつ物、家庭生ごみ、下水、し尿汚泥等を活用した完熟堆肥の利用と、未利用の林地残材等を建築ボードや木質ペレットに変換利用

6 福島県富岡町(とみおかまち)

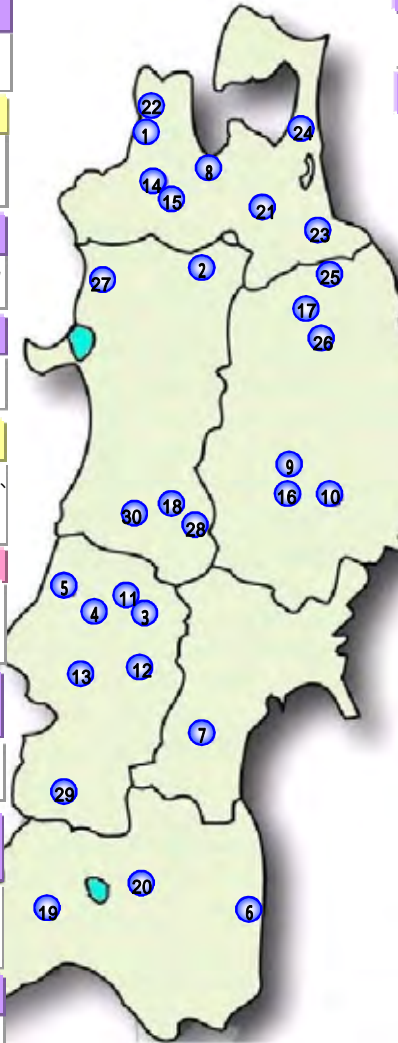
生ごみ・パーク・もみ殻の堆肥化により、土づくりを基本とした特別栽培米を推進

20 福島県大玉村(おおたまむら)

家畜排せつ物・もみ殻・稲わらの有機肥料化で有機農業の村づくりを推進、生ごみや端材を熱エネルギー利用

19 福島県会津美里町(あいづみさとまち)

家畜排せつ物、生ごみ、剪定枝を良質堆肥化、森林資源や廃



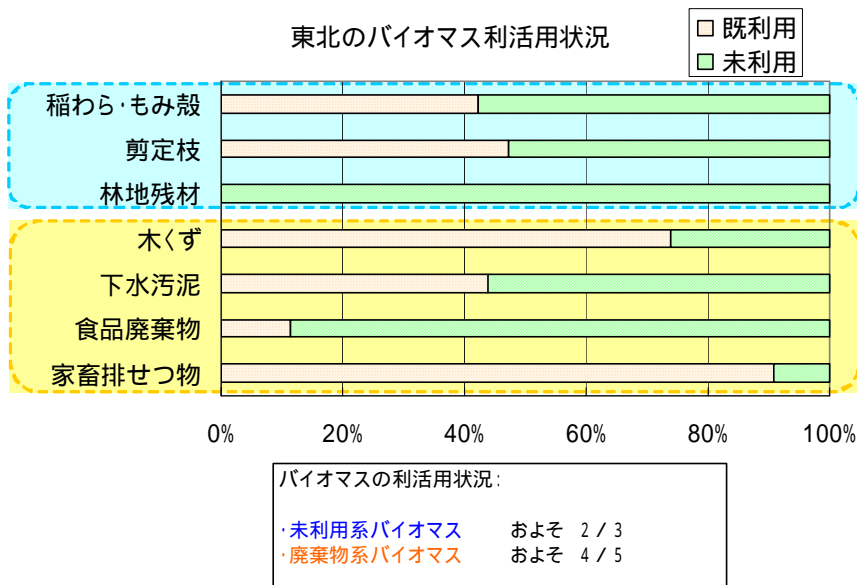
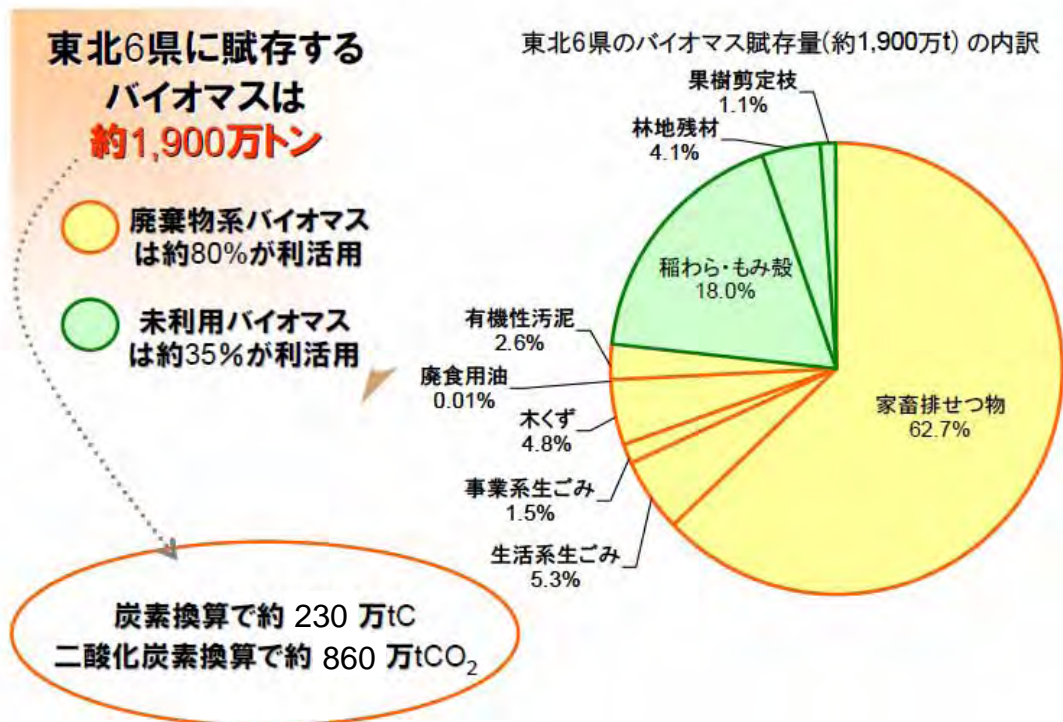
は、平成18年度以前公表地区

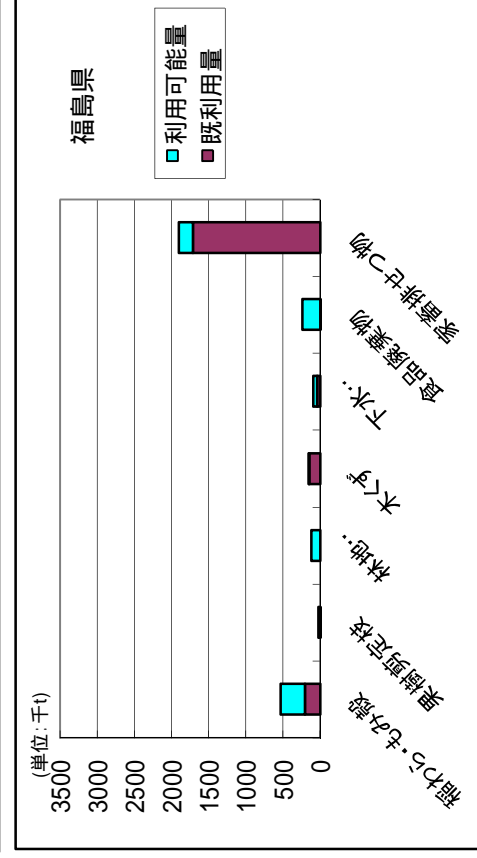
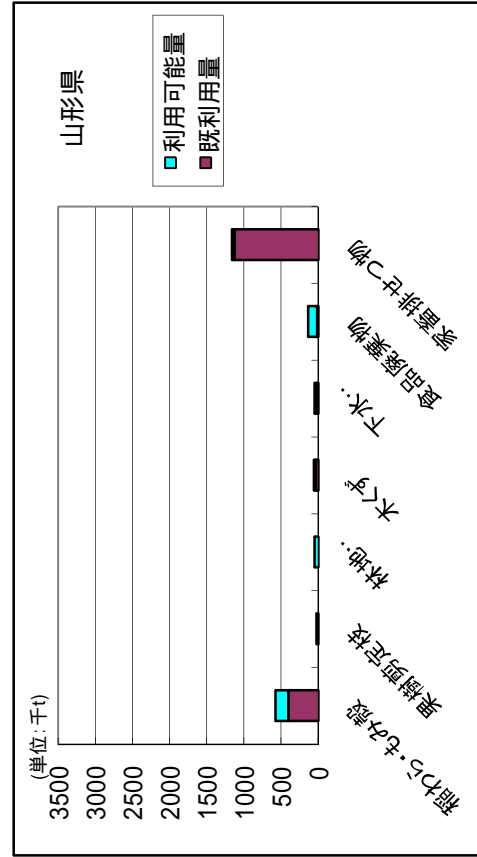
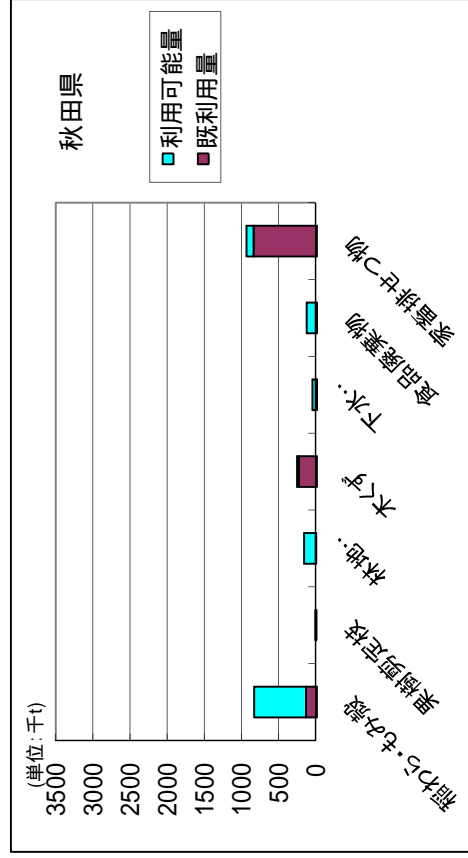
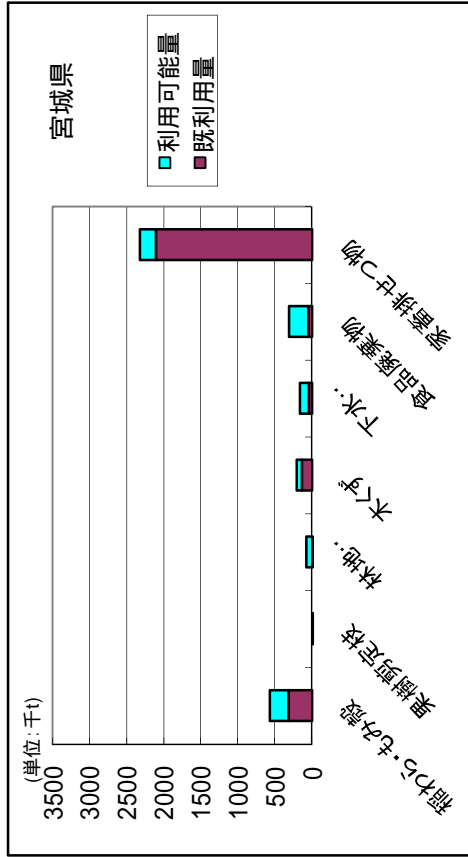
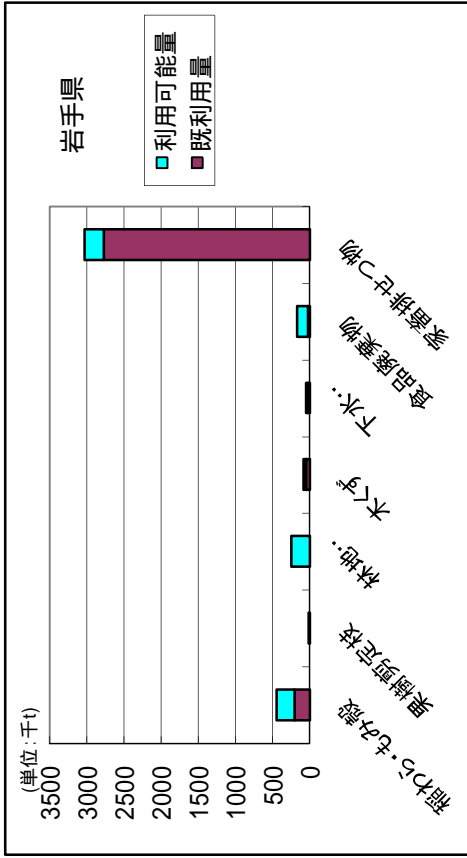
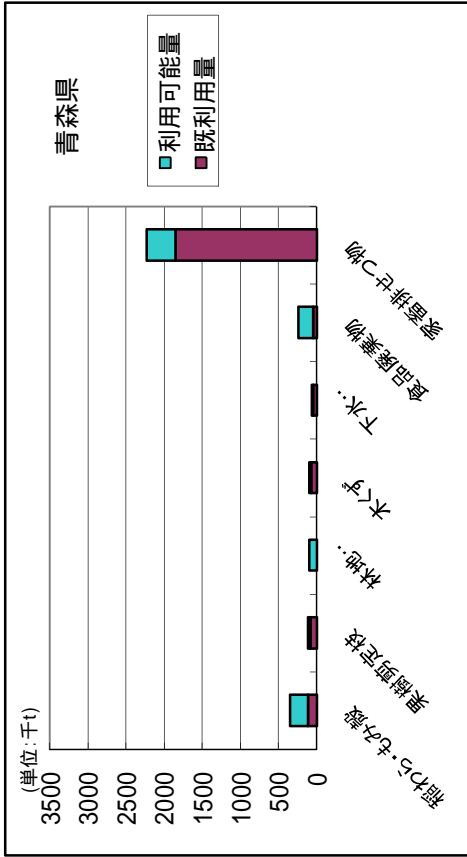
は、平成19年度公表地区

は、平成20年度公表地区

東北地域におけるバイオマスの賦存量・利活用量

平成19年度「東北地域バイオマス発見活用促進事業」において、統計情報を基に聞き取り調査及び現場踏査等を補完し、東北地域のバイオマスの賦存量及び利活用の状況を把握した。





県別の種類別バイオマスの賦存量・利用量・利用可能量の集計表

(単位:千t)

賦存量	木質系バイオマス		稲わら・もみ殻		家畜排せつ物						食品廃棄物				汚泥系廃棄物			合計				
	林地 残材	木くず	果樹剪 定枝	計	乳牛	肉牛	豚	採卵鶏	ﾌﾞﾛｲﾀﾞｰ	馬	計	産業廃 棄物	一般廃 棄物	廃食 用油	合計	下水 汚泥	し尿 汚泥		計			
																				青森	岩手	宮城
青森	100.8	104.0	119.1	323.8	285.3	66.1	351.4	274.5	533.0	870.4	263.5	275.6	12.1	2,229.2	83.0	161.3	0.4	244.3	50.1	13.5	63.6	3,212.3
岩手	249.7	90.0	15.8	355.5	365.9	85.8	451.7	898.8	953.1	940.1	209.8	35.6	0.3	3,037.7	46.0	130.8	0.3	176.8	34.0	17.0	51.0	4,072.7
宮城	81.6	215.0	2.5	299.1	455.7	116.0	571.6	493.3	879.6	495.1	234.7	223.7	0.1	2,326.5	77.0	238.6	0.6	315.6	161.3	3.2	164.5	3,677.3
秋田	153.3	251.1	11.6	416.0	695.4	135.9	831.4	121.8	199.0	532.0	70.1	1.8	3.6	928.3	5.0	116.7	0.3	121.7	41.4	2.9	44.2	2,341.6
山形	57.4	65.0	24.2	146.6	481.4	99.0	580.4	279.7	332.5	383.0	38.2	128.7	2.6	1,164.8	32.0	109.4	0.3	141.4	42.6	12.4	55.0	2,088.2
福島	121.2	156.0	25.9	303.2	441.6	95.2	536.9	362.5	732.0	476.7	246.5	64.2	22.9	1,904.8	31.3	214.0	0.5	245.3	64.2	30.5	94.8	3,084.9
計	764.0	881.1	199.2	1,844.3	2,725.3	598.0	3,323.4	2,430.7	3,629.3	3,697.4	1,062.7	729.7	41.6	11,591.4	274.3	970.7	2.3	1,245.0	393.5	79.5	473.0	18,477.0

(単位:千t)

利用量	木質系バイオマス		稲わら・もみ殻		家畜排せつ物						食品廃棄物				汚泥系廃棄物			合計				
	林地 残材	木くず	果樹剪 定枝	計	乳牛	肉牛	豚	採卵鶏	ﾌﾞﾛｲﾀﾞｰ	馬	計	産業廃 棄物	一般廃 棄物	廃食 用油	合計	下水 汚泥	し尿 汚泥		計			
																				青森	岩手	宮城
青森	0.0	71.0	83.3	154.3	88.4	32.2	120.7								54.0	0.0	0.0	54.0	50.1	0.0	50.1	2,231.6
岩手	0.0	49.0	—	49.0	139.0	68.6	207.7								27.2	0.0	0.0	27.2	31.0	0.7	31.7	3,095.1
宮城	0.0	139.0	—	139.0	226.7	99.2	325.8								58.2	0.0	0.0	58.2	44.6	0.9	45.6	2,674.2
秋田	0.0	223.7	—	223.7	59.1	74.6	133.7								2.4	0.0	0.0	2.4	—	0.4	0.4	1,200.4
山形	0.0	33.0	—	33.0	322.5	87.2	409.7								19.9	0.0	0.0	19.9	21.2	0.4	21.6	1,618.8
福島	0.0	155.0	11.2	166.2	134.3	70.1	204.4								14.0	0.0	0.0	14.0	45.5	0.1	45.6	2,144.4
計	0.0	670.7	94.5	765.2	970.1	431.9	1,401.9								168.0	7.8	0.0	175.8	192.4	2.6	195.0	12,964.5

(単位:千t)

利用可能量	木質系バイオマス		稲わら・もみ殻		家畜排せつ物						食品廃棄物				汚泥系廃棄物			合計				
	林地 残材	木くず	果樹剪 定枝	計	乳牛	肉牛	豚	採卵鶏	ﾌﾞﾛｲﾀﾞｰ	馬	計	産業廃 棄物	一般廃 棄物	廃食 用油	合計	下水 汚泥	し尿 汚泥		計			
																				青森	岩手	宮城
青森	100.8	33.0	35.7	169.5	196.9	33.9	230.7								190.3	0.0	0.0	190.3	0.0	13.5	13.5	980.7
岩手	249.7	41.0	15.8	306.5	226.9	17.2	244.0								149.6	3.0	3.0	149.6	3.0	16.3	19.2	977.6
宮城	81.6	76.0	2.5	160.1	229.0	16.8	245.8								257.3	116.6	2.3	118.9	116.6	2.3	118.9	1,003.1
秋田	153.3	27.4	11.6	192.3	636.3	61.3	697.6								119.2	41.4	2.4	43.8	41.4	2.4	43.8	1,141.2
山形	57.4	32.0	24.2	113.6	158.9	11.9	170.7								121.5	21.3	12.0	33.3	21.3	12.0	33.3	469.4
福島	121.2	1.0	14.8	137.0	307.4	25.1	332.5								231.3	18.7	30.4	49.2	18.7	30.4	49.2	940.5
計	764.0	210.4	104.7	1,079.1	1,755.3	166.1	1,921.4								1,069.2	201.0	76.9	278.0	201.0	76.9	278.0	5,512.6

東北管内市町村に対するバイオマスに関するアンケート調査結果
(東北地域バイオマス発見活用促進事業より)

1. 調査目的

バイオマスに関する市町村の考え方や状況を把握した。

また、平成17年度に東北地域バイオマス利活用促進連絡会議が実施した「バイオマス利活用とバイオマスタウンに関するアンケート」と比較し、意識の変化を把握した。

2. アンケート調査対象

231市町村バイオマス担当者を対象に、平成20年3月に実施。

回答数は163市町村、回収率は70%。

【参考：平成17年度のアンケート調査】

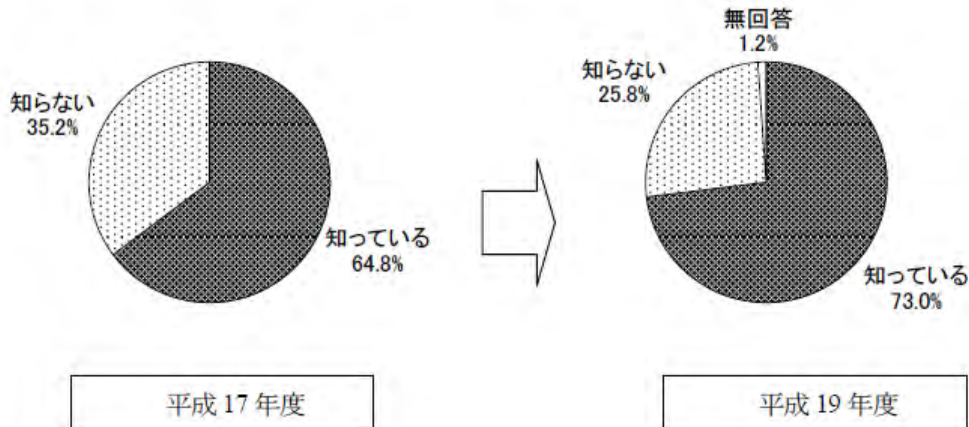
314市町村バイオマス担当者を対象に、平成17年8月に実施。

回答数は287市町村、回収率は91%。

3. アンケート調査結果

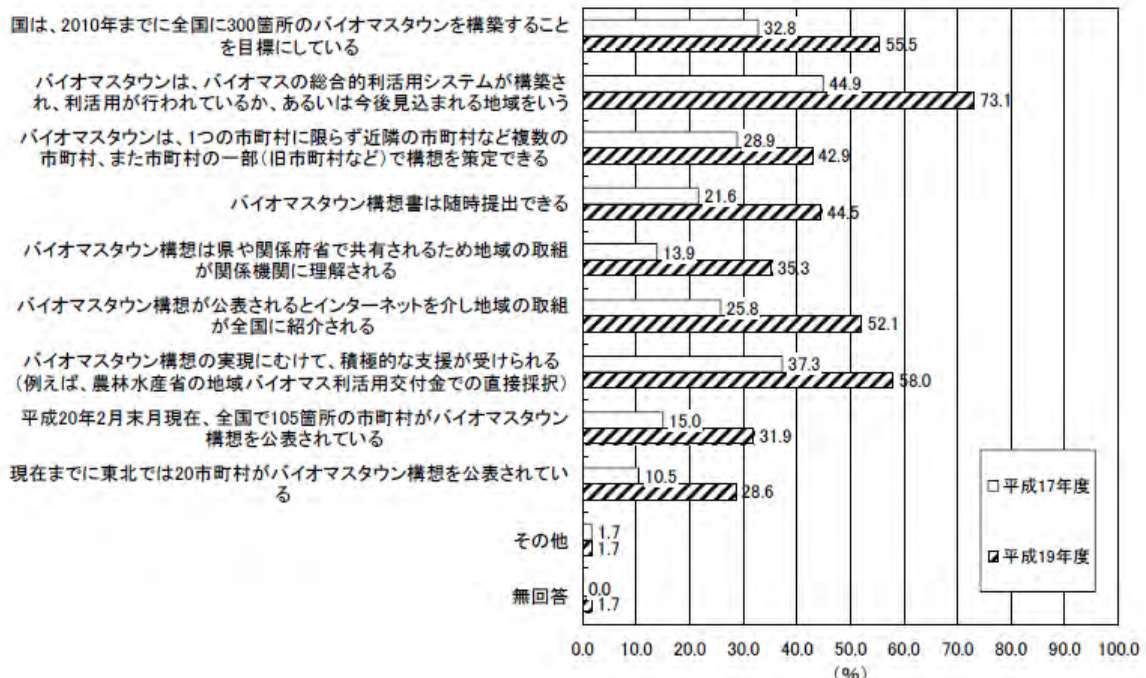
(1) タウン構想推進の認知度

平成17年度の調査では、国や関係機関がバイオマス利活用を進めるためにバイオマスタウン構想を推進していることは「知っている」と回答した市町村が64.8%だったのに対して、今年度の調査では73%の市町村が「知っている」と回答、約10ポイント程度増加している。



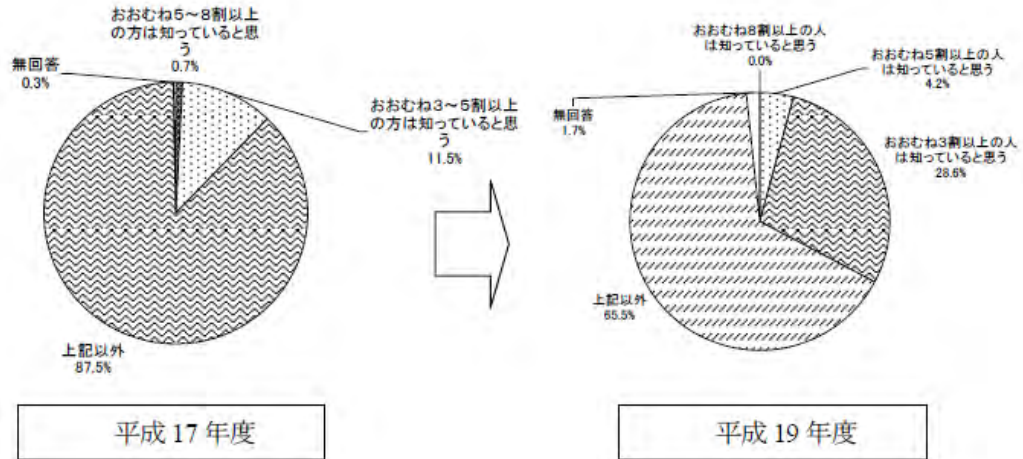
(2) タウン構想について知っている事項

平成17年度調査より全般的にポイントは上がっている。特に、「バイオマスタウン構想の定義(総合的利活用システムが構築、あるいは利活用、今後見込まれる地域をいう)」が44.9%から73.1%に、「バイオマスタウン構想の実現にむけて積極的な支援が受けられる」が37.3%から58%に、「2010年までに300箇所のバイオマスタウンを構築することを目標にしている」が32.8%から55.5%と軒並み20%以上の伸びを示している。



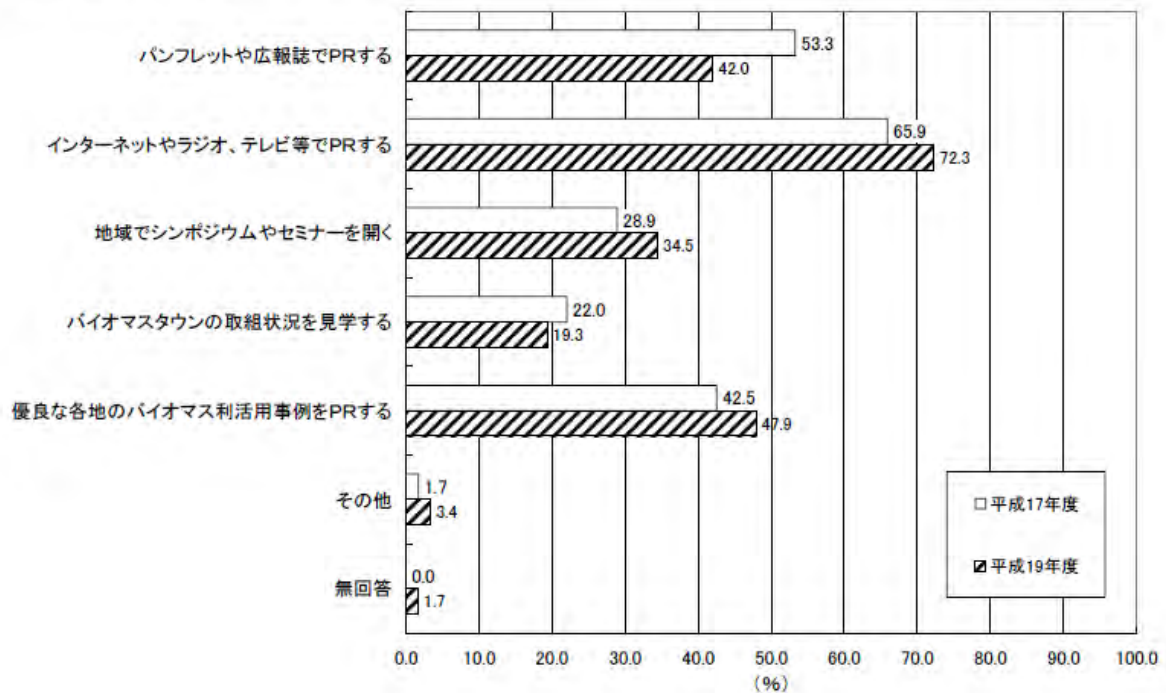
(3) 住民のバイオマスタウン推進の認知度

平成17年度調査では『5～8割以上』『3～5割以上』の方が知っている」が計12.2%だったが、今年度調査では計32.8%に増えている。



(4) タウン構想を理解していただくための方法

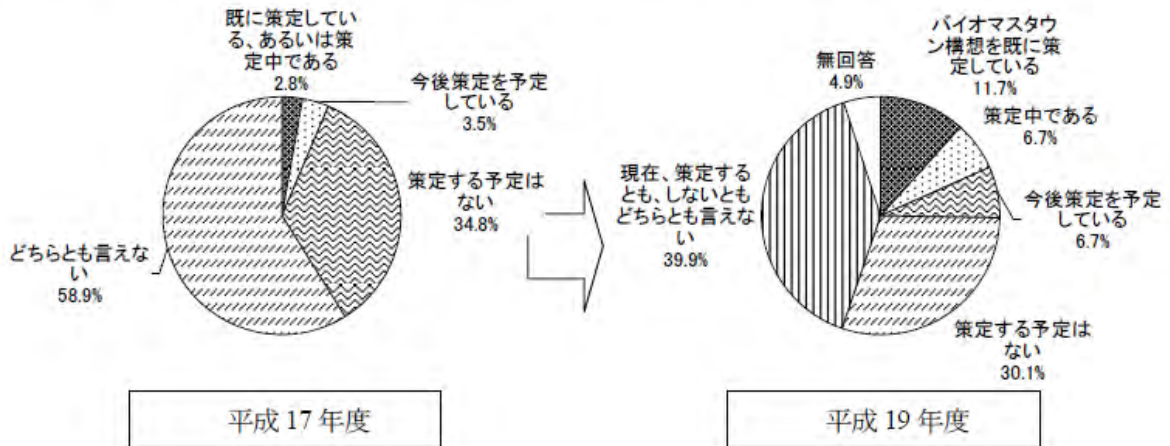
今後、バイオマスタウンをより多くの方に理解していただくための方法としては、「パンフレットや広報誌でPRする」「バイオマスタウンの取組状況を見学する」が減少する一方で、「インターネットやラジオ、テレビ等でPRする」「地域でシンポジウムやセミナーを開く」「優良な各地のバイオマス利活用事例をPRする」が増えている。



(5) 今後のバイオマスタウン策定の予定

今後のバイオマスタウン構想の策定予定では、「既に策定、あるいは策定中」が2.8%から18.4%に、「今後策定を予定している」が3.5%から6.7%に増加している。その一方で「策定する予定はない」は34.8%から30.1%に、「どちらともいえない」は58.9%から39.9%に減少となっている。

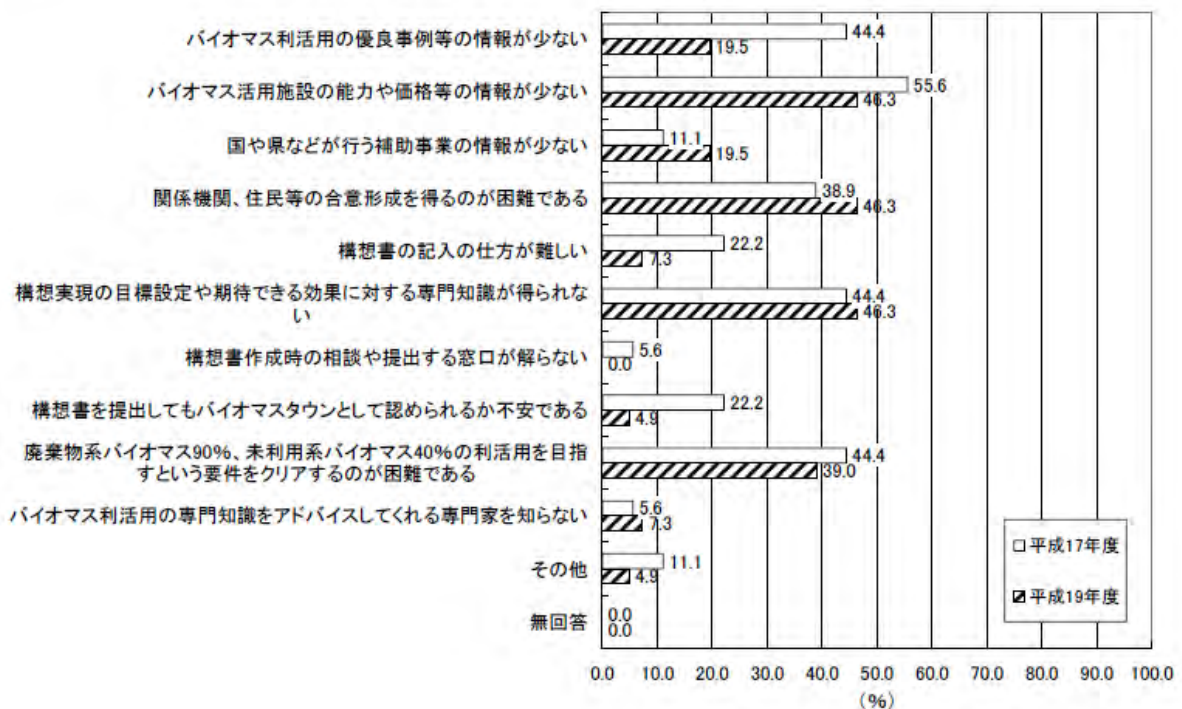
「策定済み、策定中、今後予定」を合わせると、6.3%から25.1%に増えている。



(6) バイオマスタウン構想の策定時の課題

平成17年度と比べ、「バイオマス利活用の優良事例等の情報が少ない」は44.4%から19.5%に、「バイオマスタウンとして認められるか不安」は22.2%から4.9%に大きく減少している。

その一方で「関係機関、住民などの合意形成を得るのが困難」が38.9%から46.3%に、「補助事業の情報が少ない」11.1%から19.5%に、「専門知識が得られない」が44.4%から46.3%に増えている。

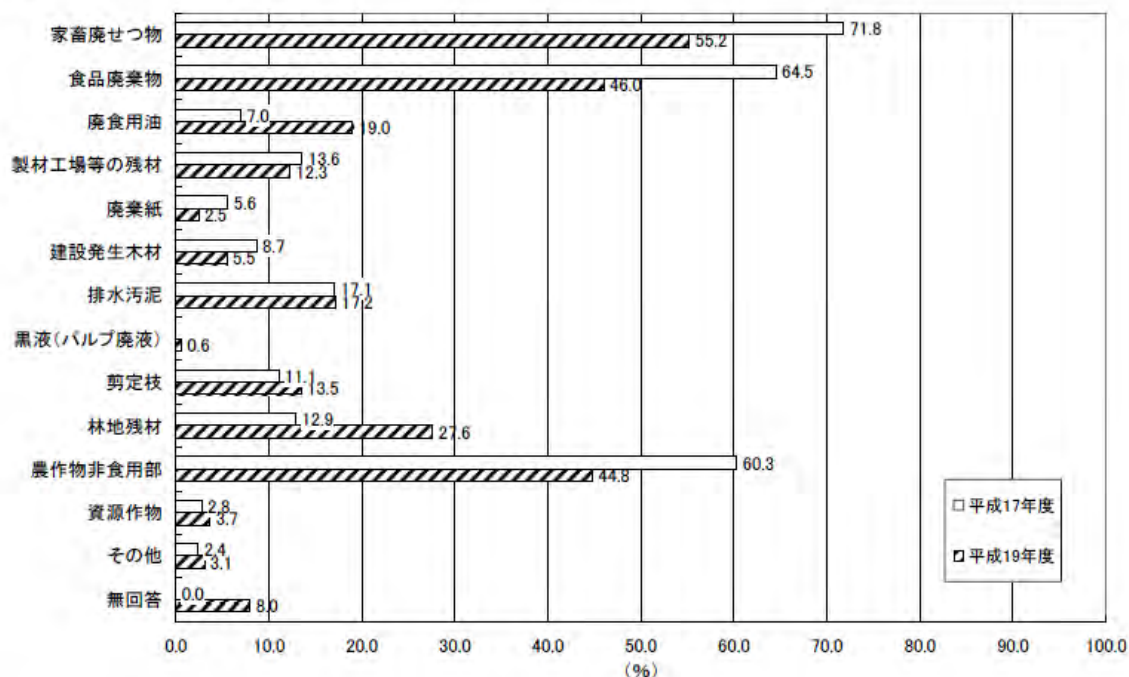


(7) バイオマスの利活用について

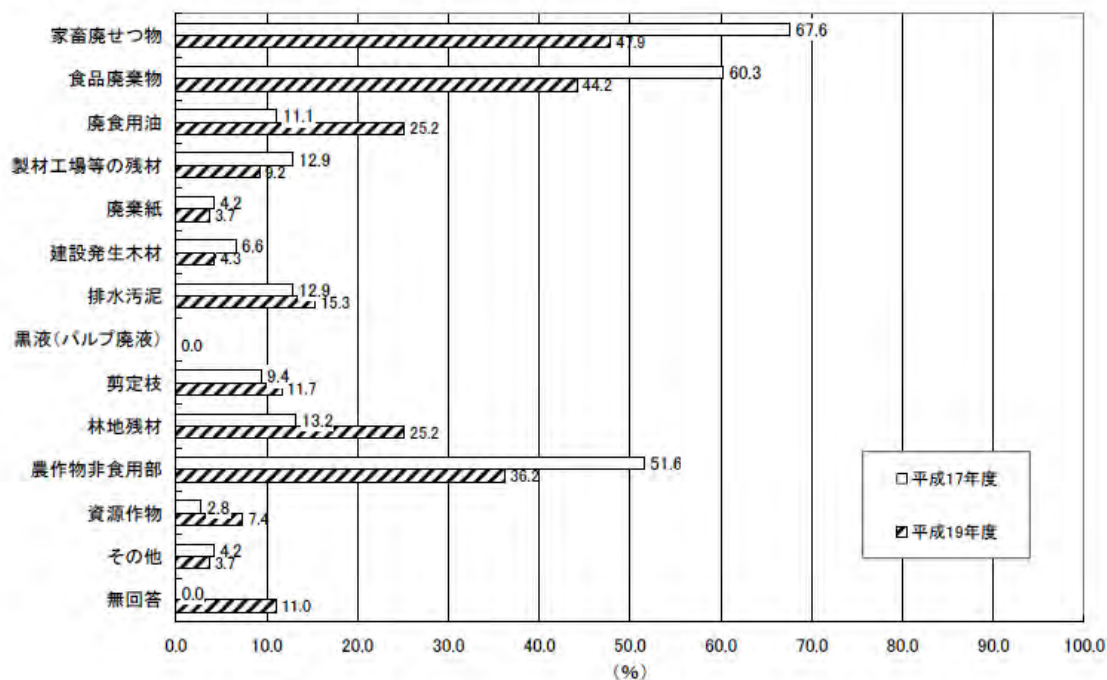
■地域に多く賦存するバイオマスと利活用を図りたいバイオマス

平成17年度調査は複数回答、今年度調査は「多いもの三つまで」とする質問であるため、一概には比べられないが、「廃食用油」「林地残材」が増えている。

<多く賦存するバイオマス>



<多く利活用を図りたいバイオマス>

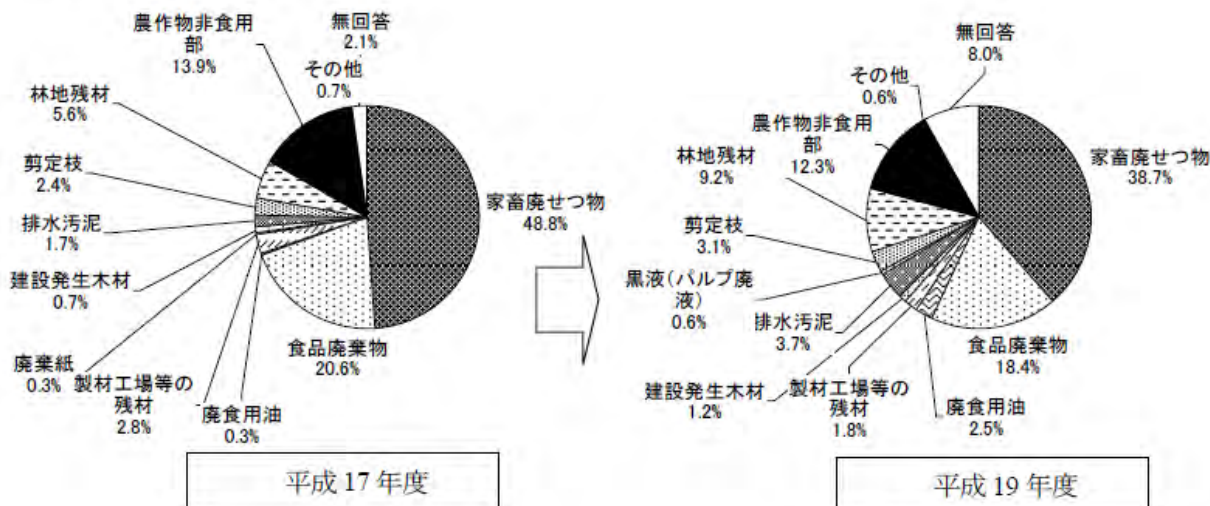


■地域に最も多く賦存するバイオマスと最も利活用を図りたいバイオマス

最もおおく賦存するバイオマスは、「家畜廃せつ物」が48.8%から38.7%に減少する一方、「林地残材」が5.6%から9.2%に、「排水汚泥」が1.7%から3.7%に、「廃食用油」が0.3%から2.5%に増えている。

利活用は「家畜廃せつ物」が減少する一方で「廃食用油」「林地残材」が増えている。

<最も多く賦存するバイオマス>



<最も利活用を図りたいバイオマス>

